



ウェルビー

2016年4月 第26号

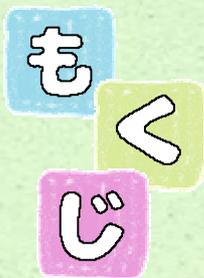
今年も新しい仲間が増えました!!

新しい仲間が28名入職しました。

新しい力が加わり、より地域のニーズに応えられるようパワーアップします!



2016.4.1入職式



- 紀北地区 初!! 結核病室のご紹介
- コンチネンスケアってなに?
- 教えて! 認定看護師さん
- 新任医師着任のお知らせ
- 医療法人南労会学術研究発表会
- 橋本市立 小学生へのがん教育
- 院内 保育園 リニューアル
- 「竹が奏でるハーモニー」
- 連携室便り 地域の架け橋



医療法人南労会
紀和病院

〒648-0085
和歌山県橋本市岸上 18-1
TEL.0736-33-5000
E-mail: info@nanroukai.or.jp
<http://www.nanroukai.or.jp>

- 理事長/佐藤雅司 ● 院長/西口孝
- ベッド数 総病床数 212 床
一般病棟 87 床、地域包括ケア病棟 12 床
障害者施設等一般病棟 53 床、緩和ケア病棟 13 床
回復期リハビリテーション病棟 47 床
- 診療科目
○内科 ○呼吸器内科 ○消化器内科 ○循環器内科
○糖尿病・代謝内科 ○人工透析内科 ○内視鏡内科
○外科 ○消化器外科 ○脳神経外科 ○整形外科
○乳腺外科 ○静脈外科 ○皮膚科 ○神経内科
○疼痛緩和内科 ○麻酔科 ○放射線科
○リハビリテーション科

365日 年中無休救急体制

紀北地区 **初!!** 結核病室のご紹介



「結核は昔の病気ではない
正しい知識で対処!」



結核病室



トイレとシャワー



空調管理機器

結核とは、結核菌を吸い込むことと起こる感染症です。結核菌は自分から動くことができませんが、結核にかかっている人の咳やくしゃみの際に飛び出して、飛沫核という小さな粒子となって浮遊しています。しかし、感染したから、必ず発病するわけではありません。10人が結核に感染した場合、発病するのは、1人〜2人と言われています。通常は免疫機能が働いて、結核菌の増殖を抑えます。ただし免疫力が弱まると発病するケースが増えてきます。

結核患者の現状

結核病室のない医療機関で、結核に罹患していることが判明した場合、結核病室（陰圧空調の個室）のある医療機関に転院する必要があります。紀北地区でも結核患者は大阪府に転院することを余儀なくされてきました。

しかし、結核患者数の減少、結核入院期間の短縮により結核患者治療のために必要な病床数は減少しています。そのため結核患者に対して医療機関の絶対数が足りません。また持病のある結核患者の入院については一府県では対応できないケースが多く、県外まで入院先を探している現状があります。

紀和病院の結核病室



そこで地域や医療機関より結核の治療を行える施設を求める要望があり、厚生労働省の指定を受け、当院では、結核の入院治療を受けながら人工透析を行える結核病室を整えました。今後は当院で安心して入院治療を受けていただくことが出来ます。

結核の初期は、ご自身では風邪かな？と思える程度の症状しかありません。ずっと咳が続いたりしますので、咳がなかなか治らない場合は、結核の疑いを事前に連絡のうえ、医療機関（呼吸器内科）を受診して下さい。結核も他の病気の様に早期発見する事で重症化する前に完治出来る病気です。

「排泄ケア勉強会」 地域連携をめざして

山本病院、紀北分院、紀和病院が中心となって、地域の排泄ケアの向上を目指して排泄ケア勉強会が開かれました。基調講演では、海南医療センター 副院長 小川隆敏先生より「尿失禁の基礎知識」と題して、排尿量の基準や失禁の原因分類など、コンチネンスケアの前提となる基礎的な知識について教えて頂きました。

紀和病院からも池田副看護部長、横山看護師の2名より、コンチネンスケアの医療機関での連携や在宅との連携について事例紹介を行いました。最後に、ディスカッション形式で参加者それぞれの現場におけるコンチネンスケアに関する取り組みについて情報を交換し、お聞きとなりました。

紀和病院の「コンチネンスサポートチーム」

紀和病院では2013年4月からCST（コンチネンスサポートチーム）を立ち上げ、患者さんのためのコンチネンスケアに取り組んでいます。入院中の排泄環境向上だけでなく、退院後の生活でも排泄に困らないように、患者さん、ご家族と情報を共有し、より良い排泄の実現を目指しています。



「コンチネンスケア」とは

病気や怪我によって、尿や便が思うように排泄出来なくなることがあります。また、年齢を重ねることによる生理的機能の自然な低下によっても、トイレまで我慢することが難しくなり、咳やくしゃみなどの弾みで失禁してしまったりということは、誰にでも起こることです。「コンチネンスケア」は「排泄ケア」とも呼ばれ、気持の良い本来の排泄を実現するために一緒に取り組む活動です。

- (1) 失禁にならないための予防を行い
 - (2) 症状に対して治療や環境を整えることで漏れを最小限度にとどめ
 - (3) 漏れが治せない障害として残ってもそれが問題とならないように、ご本人やご家族がケアを出来るように支援すること
- これらを含めてコンチネンスケアと言えます。



教えて！認定看護師さん



今日も笑顔でベッドサイドへ！

糖尿病と共に“その人らしく生きていく”ことを支援したい

糖尿病看護認定看護師 山崎 亨子



糖尿病看護認定看護師の山崎亨子です。認定看護師とは、看護の分野において「実践」「指導」「相談」の3つの役割を果たすことにより、看護の広がりや質の向上を図ることに貢献します。現在の認定看護師の種類は21分野あり、全国で活動を行うようになってきました。私が担当するのはその名の通り糖尿病看護です。

世界でも糖尿病人口は増え続けており、日本では成人の4人に1人が糖尿病もしくは糖尿病予備群といわれています。慢性的な病気である糖尿病は、患者さんと長くおつきあいをしていかなければならないため、生涯にわたる治療と生活の自己管理が必要となります。自己管理のストレスや金銭的な負担だけでなく、糖尿病であることそのものや将来の合併症の不安も抱えていることと思います。糖尿病患者さんはどのように行動すればよいのか、悩みながら日々を暮らしているのではないのでしょうか。



糖尿病の治療は、食事・運動・薬物療法の3本柱がメインです。どの治療も大変重要な役割を持っています。しかし、糖尿病患者だから食事療法を守らないといけない、運動をしなければいけない、飲み薬やインスリン注射に振り回される。このような日常生活では、本当にその人らしさを生かして生活していくことができるのでしょうか。糖尿病を発症して糖尿病患者さんになっても、一人の生活する人にかわりはありません。



回診風景



透析スタッフとともに

仕事を持っている方は社会的役割が大きく、自分の健康はついあと回しになりやすいと思います。ご高齢になり、日常生活に支障が出てきた方もいらっしゃるでしょう。病気によって偏見を受けることもあるかもしれません。妊娠・出産にしても同様です。海外旅行、体調不良時、認知症やがんを患ったときなど、糖尿病患者さんだって様々な人生のライフイベントに遭遇し、食事や薬をどのように対処したらよいか判断に困ることがあると思います。

病気の時期や病状によっては、生命維持のための治療優先や、合併症予防のためのゆずれない治療もあると思います。しかし、慢性的に長期に療養していく中で、その人が大切にしている生活と治療の折り合いをつけていくことがとても大切です。私たち医療者と相談しながら、様々な工夫を行い、体験の中で学び、実践してほしいと願います。そこに、糖尿病を持ちながら一人の生活者として自己管理していくことができるのではないのでしょうか。その人らしく治療ができるようにお手伝いさせていただきたいと考えます。

あくまでも、糖尿病治療の主治医はあなたです。糖尿病に打ち勝つのではなく、糖尿病を持ちながらご自身の学業、仕事、趣味、結婚や妊娠、インスリン注射などを行っていくすべを一緒に考えていきたいと思えます。

「ブルーサークル」は糖尿病との闘いに向けて団結することを促すシンボルマーク。「青」は国連や空、「輪」は団結を表している。

新任医師着任のお知らせ

当院では、4月1日付けで医師が2名入職しました。
これまで以上の充実した診療体制を目指します。

副院長	内科	いひら 居平	のりひさ 典久	医師
	麻酔科	しらかわ 白川	そういち 総一	医師



新任医師の紹介は次号にて掲載いたします

医療法人南労会学術研究発表会

医療法人南労会では、年に一回、法人関連の全事業所が集まり、日々の臨床における実践や研究結果について発表する学術研究発表会を開催しております。学術研究発表会は、法人としての大きな業績の一つであり、今回で13回目を迎えることとなります。他の職種の発表内容を聴講し、他の職種ではこのようなことをしているのか、またこのような研究をしているのかと、新たな発見も生まれるかもしれません。このような趣旨で今後も引き続き、学術研究発表会を開催したいと思います。



日程 平成28年3月19日
場所 かつらぎ総合文化会館
「あじさいホール」

発表・質疑応答の様子



院内 保育園 リニューアルしました

どんぐり保育園が改修されリニューアルしました！
当院は24時間 院内 保育所を完備し仕事と家庭を両立してがんばる職員をサポートしています。



小学生への「がん教育」

橋本市立の全小学校でスタート！

2015年よりがんについての正しい知識を伝え子ども達から家族への検診啓発につなげたいという思いから伊都医師会・橋本市・橋本市教育委員会が中心となって実施してきた「がん教育」生命の授業」(授業参観形式)。
そして、2016年度から橋本市立小学校全15校で「がん教育」生命の授業」を展開していきます。

【教材監修】

紀和病院 梅村定司医師



「竹が奏でるハーモニー ～しなやかな竹の音空間～」 を開きました

【開催日】2016年3月25日(金)

【演奏】メロディ マニスの皆さん

インドネシアの民族楽器「アングルン」を使って、メロディ マニスの皆さんが演奏会を開いてくださいました。最初、楽器を見たときは「どうやって演奏するのかな?」「どんな音がでるのかな?」と疑問に思いましたが、竹の澄んだ音があまりにも涼やかできれいなのに驚きました。この音色は身体の芯まで振動してきます。また重厚でリズムカルで幅広い演奏の可能性を秘めた楽器です。20分の時間があっという間に終わってしまうような楽しいひと時でした。ありがとうございました。



地域連携室便り

地域の 架け橋

循環器内科・呼吸器内科を中心に内科全般を診療させて頂いております。開業するまでは大学病院・総合病院で循環器内科を中心に診療に取り組んで参りました。特に、狭心症や心筋梗塞に対する心臓カテーテル治療、心臓超音波検査による心臓病診断を専門的に行っておりましたが、常にその患者さん全体を診るように心がけておりました。開業前に勤務しておりました病院では、多職種が一体となって患者さんの治療に取り組める体制に心がけており、地域の開業医を含めた医療機関と協力す

ることにも10数年前より取り組み、当時の勤務医であった私もスタッフと分担して医療機関を訪問し、協力を御願ひして回っておりました。約13年前に開業する際、この地域に同じような病院があるのか心配でした。

医療法人森下会 森下クリニック

幸いにも、紀和病院がこの地域では、いち早く地域医療連携室を立ち上げて下さり、入院依頼やMRI、CT、胃および大腸内視鏡の検査も院内で依頼する感覚で予約できる体制をとって頂き、大変感謝しております。年々、その体制も予約・報告様式も改善・改良して頂き、報告も早く、小さな一医療機関としては、病院の一つの診療科の感覚で診療にあたる事が出来、患者さんには当院と紀和病院とを移動して頂く、御不便をおかけし、大変心苦しく思っておりますが、その御手数以上の貴院の放射線専門医、消化器専門医など多くの専門医からの診断・治療・助言を頂くことが出来ていることで、幾らかでも御手数に対するお返しが出来ているのではないかと考えております。このために、紀和病院の多くの医療スタッフ、地域医療連携室を中心とした事務の方々に紹介させて頂いた患者さんを中心に関わって頂いていることに日々感謝させて頂いております。

今後とも、できればさらに診療科及びスタッフを増やして頂き、この地域の拠点病院

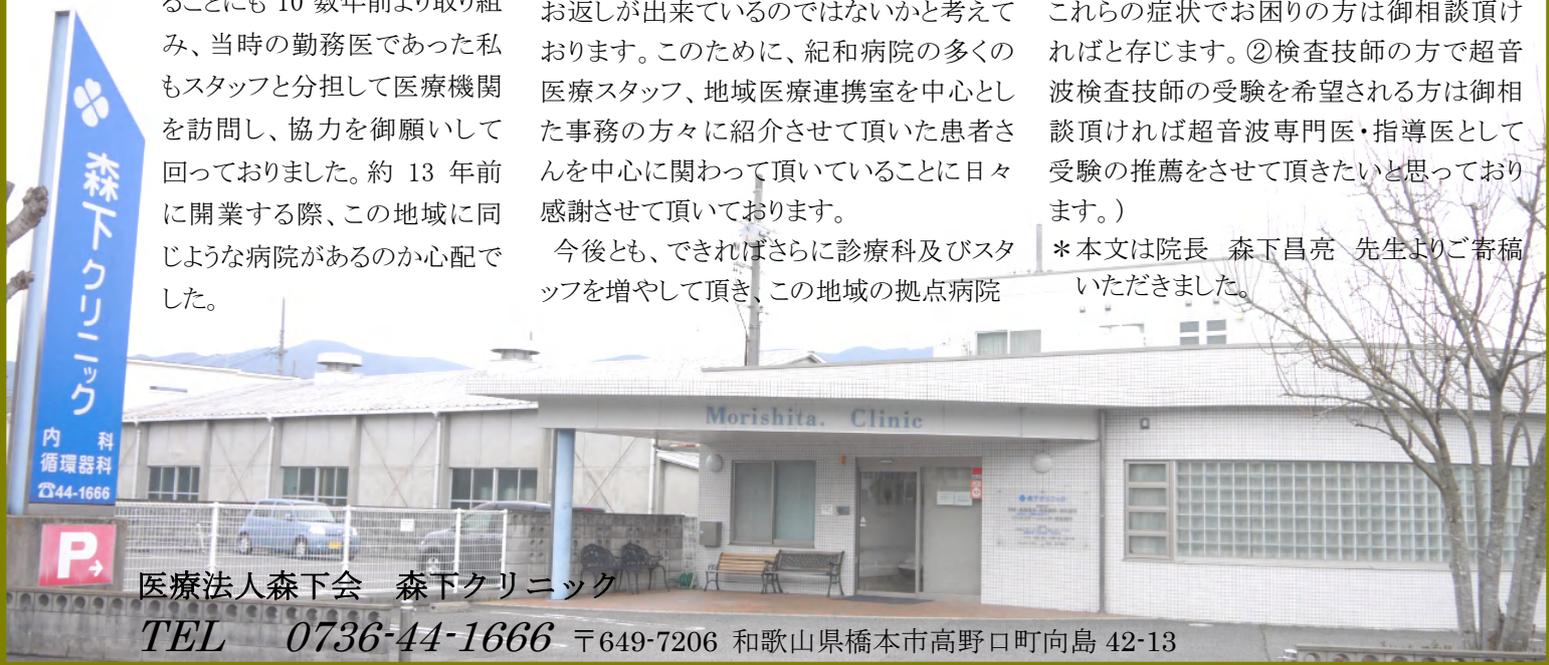


院長 森下昌亮先生

として、さらに発展される事を期待しております。

(追記①毎月1回土曜日にNHK「ためしてガッテン」などのテレビにも出演した味村Drに東京から応援に来て頂き、専門医による便失禁(便漏れ)や便秘などの「排便機能相談」の外来を設けておりますので、これらの症状でお困りの方は御相談頂ければと存じます。②検査技師の方で超音波検査技師の受験を希望される方は御相談頂ければ超音波専門医・指導医として受験の推薦をさせて頂きたいと思っております。)

*本文は院長 森下昌亮 先生よりご寄稿いただきました。



医療法人森下会 森下クリニック

TEL 0736-44-1666 〒649-7206 和歌山県橋本市高野口町向島 42-13